

インド・ダリットの子どもたちのデイケアセンター設置・運営 プロジェクト 実施の背景と活動報告 2009-2010

反差別国際運動 (IMADR)
農村教育開発協会 (SRED)

プロジェクトの背景

世界では2億5千万人が“職業と世系に基づく差別”を受けている。その内の約1億6千万から1億8千万人がインドにいるといわれている。ダリットはインド人口の17%以上を占めている。タミールナドゥ州ではダリットは州人口の19%を占め、全州の中でダリット人口が占める割合が5番目に大きい。その内、ダリット女性は590万人に昇り、その大多数(70.1%)が農村部に住んでいる。ダリット女性のうち、62%は読み書きができない。ダリット女性は土地をもたない農業労働者である。ダリット世帯の内、日常生活において飲水、電気、トイレを利用できるのは10%にも満たない。ダリット女性は日常的に虐待を受けている。ダリットは差別され、平等に扱われない。政府も同じようにダリットの問題を無視しており、そうした状態で最も苦しい立場におかれるのはダリット女性である。

政府の統計によれば： 毎時間、2人のダリットが攻撃を受け、
毎日、3人のダリット女性がレイプされ、
毎日、2人のダリットが殺され、
毎日、ダリットの小屋2軒が燃やされている。

差別は生活のあらゆる場面に影響を及ぼす：健康、住居、教育、仕事、結婚、社交。大半のダリットにとって、カーストによる差別から逃れる道はない。数千万人のダリットが債務奴隷に陥っている。ダリットはその状態から抜け出す力をもっていない。ダリットである彼/彼女たちは、カースト制度の罠に陥り、世代を超えて貧困の悪循環から逃れることができない。ダリットは公共の井戸や公園など基本的なアメニティ、保健サービスおよび教育の利用を許されていない。政府の統計ではダリットの子どもたちの多くは学校に入学していることになるが、最も懸念される問題である未就学および中途退学の子どもたちについての詳細はない。ダリットの子どもたちが学業的に遅れている背景には、概して貧困と非識字の家庭環境がある。しかし、ダリットの子どもたちを学校から遠ざけているカースト差別と社会的排除の要素は背後にある原因として示されていない。

人間資源開発省の統計はダリットの子どもたちの驚くべき状況を示している。初等教育(1年生から5年生)での退学率は約36.56%である。中等教育(1年生から8年生)では59.42%となり、高等教育では73.13%となっている。ダリットの子どもたちの多くが中等学校や高等学校に加え、初等学校の段階でも学校を辞めなければならない状況にあることを示している。

ダリットの子どもたちは学校で他の子どもたちとは異なる環境に置かれる。差別と不可触の慣行にさらされ、ダリットが伝統的に行ってきた任務を押しつけられる。校庭や教室の掃除をさせられ、教員に水をもっていかされる。教室では大抵一番後ろの席に座らされる。給食の時間での不可触性はダリットの子どもたちが差別を受けるもう一つの分野である。奨学金、制服、教科書、給食など無償の配布プログラムがたくさんあるが、それらはダリットの子どもたちには適切に届いていず、支給されている割合はその他の子どもたちと比べて不釣り合いに低い。学校管理者はダリットの親に敬意をもって接していないし、他の親たちと比べて不公平である。

タミールナドゥの統計数字：

州人口に占めるダリット人口	19.18%
ダリットの識字率	39.47%
ダリット以外の人たちの識字率	58.27%
ダリット女性の識字率	29.50%
その他の女性の識字率	48.57%
高校でのダリット学生の退学率	79.88%

教育における差別の問題は無視されてきたために、ダリットの教育や学力に関する比率は低い。私たちはこの問題に的を絞って取り組まなくてはならない。

これら状況に対して SRED はダリットとイルラ(先住民族)の子どもたちの教育促進計画を進めてきた。その過程において SRED は子どもたちが学校に就学できない理由、途中で辞めなくてはならない理由を追跡した。SRED の活動地区の住民とやりとりすることで、子どもたちの未就学や退学の理由が次のように見えてきた：

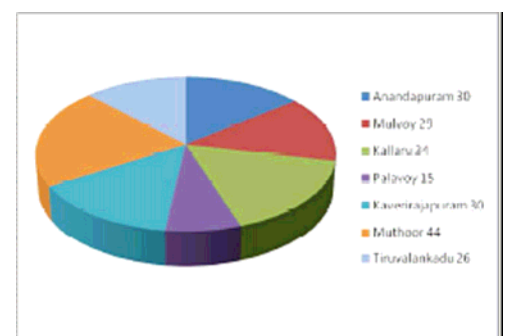


- * 貧しくて文字の読み書きができないダリットおよびイルラの女性たちは、レンガ工場、畑の力仕事、家事労働、建設現場、行商、薪集めなど、その仕事に関係なく、家に残していけないため子どもたちを仕事に連れて行っている。
- * 仕事場で子どもたちは安全を保障されていないし、埃、化学薬品をはじめ有害で危険な物質に無防備にさらされている。
- * 仕事中、母親は子どもの世話をやることができず、時間通りに食事を与えることができないため、子どもたちの栄養状態は悪い。
- * 仕事場に子どもを連れていくことが原因で職を失う親たちもいる。
- * 子どもたちは事故にあいやすい。仕事場で母親を探していたイルラの子どもが事故にあって片足を失くした。ディケアセンターの支援で義足をつけることができた。
- * 親と一緒に農場に行く子どもたちは殺虫剤散布にさらされている。
- * これら子どもたちは教育の機会を奪われ、後には児童労働の犠牲になることが多い。



ダリット・ディケアセンターの促進

ダリットとイルラの労働者の子どもたちに教育を促進させなくてはならないことを考え、SRED は活動地区でダリット子どもディケアセンターを開設することにした。最初のディケアセンターはカラルで始まり、それから徐々に広がりさらに6か所増えた。現在7つのダリット・ディケアセンターがティルヴァールおよびヴェロールの地区で運営されている。これらディケアセンターは、アナンダブラム、ムルウォイ、カラル、パラウォイ、カヴェリラサブラム、ムトゥール、そしてティルヴァランカドゥの村にある。



番号	ディケアセンターの名前	教員	子どもの数
1	アナンダブラム	アニタ	30
2	ムルウォイ	アラメル	29
3	カラル	ファリーダ	34
4	パラウォイ	ギリジャ	15
5	カヴェリラサブラム	マンジュラ	30
6	ムトゥール	グナ	44

センターに入所する子どもたちの特定

子どもたちは調査を通して探しだす。ティルヴァールおよびヴェロール地区でもそうして探し出した。母親の仕事場に連れて行かれる子どもたちや通学を始めていない子どもたちも調査に含まれる。調査地域はアリキラパディ、パラヤカラ・カンディガイそしてカラルのそれぞれの村にあるレンガ窯であった。そこにはタミールナドゥの他の場所から出稼ぎに来ている人たちがたくさんいる。レンガ工場では子どもも含み誰もが一家総出で働いている。

調査は同じくレンガ窯で働いているアラコナム地区からのイルラも含んだ。これら労働者の子どもたちは親と一緒に出稼ぎに来るため学校を辞めざるをえない。そして親と一緒に窯で働く。幼い子どもたちは家に残されるが、食事を与えられないし安全も守られない。

行商人は子どもたちを家に残していくが、子どもたちには食事も安全もない。時には子どもの面倒をみるために行商に出ることができない。それは家計の収入が減ることにもなる。

教員の特定

適切な教員の条件として、地元のことをよく知っている、子どもたちのことをよく理解できる、などがある。教員としての資格に加えてこれら要素が必要だ。地元出身で、運動に参加し、ダリットあるいはイルラのコミュニティの女性たちが優先的に選ばれる。

教員にはオリエンテーションと知識向上のためのトレーニングを行う。毎月正式な見直しを行い、必要に応じたトレーニングを与える。トレーニングをするのはSREDのスタッフである。戸外でのトレーニングもある。

ディケアセンター

調査で特定された子どもたちがディケアセンターの入所を認められる。ダリット・ディケアセンターで学ぶ子どもたちには食事、衣服、ミルク、ビスケット、豆、コーヒー、ノート、文具が無料で支給される。教員は子どもたちに歌や話を教え、学習意欲を湧かせる。

子どもたちは花火工場やその他の工場での児童労働の状況について自覚をするようになる。絵を描いて、詩を読み、アルファベットを習う。子どもたちは生活の問題について教えられる。

ディケアセンターでこうしたことを身につけた後、子どもたちは通常の学校に入学する。ディケアセンターが運営されることで、ダリット女性、イルラ女性、モスレム女性は仕事場に子どもをつれていく必要がなくなった。

学校は10時に始まり3時に終わる。教室では子どもたちにミルクとビスケットが与えられ、午後1時には栄養を考えた食事が出される。衣服や読み書きの教材が与えられる。子どもたちは軽く昼寝をし、ゲームをして遊ぶ。教員のために遊び方を決める。親たちは仕事を終えたら子どもを迎えにくる。

地域全体のお祭りや子どもの日にはすべての子どもたちが一緒にプログラムを楽しむ。

ダリット・ディケアセンター

1. アナダブラム・ダリット・ディケアセンター

アナダブラム・ダリット・ディケアセンターはヴェロール地区のアラコナム・タルクにある。センタ

ーには農業、行商、レンガ工場、家畜飼育などの仕事に携わっているダリット家庭の子どもたちが通所している。村の子どもたちは初等教育を受けるためには2キロの道のりを通わなくてはならない。もう一つの学校も村から遠いところにある。そうした背景の中、日雇い労働の人びとからの寄付でセンターができた。



アナンダプラム村の人びとの要望に動かされ SRED はこの村でダリット・ディケアセンターを始めることになった。センターの運営は順調で30人の子どもたちが通っている。皆なダリットの家の子子どもたちで、24人が女子で6人が男子である。年齢は1歳から4歳。アニタが子どもたちの指導にあっている。他のセンターと同じように子どもたちは

SRED による授業を受け、給食と制服を与えられる。



ディケアセンターがあるため、アナンダプラムのダリット女性は子どものことを心配せずに仕事に行ける。アナンダプラムセンターにはブランコ、滑り台、シーソーなどが備わった遊び場がある。



センターの建物の中で、私たちは村の少女20人を集めて毎日縫製の訓練を行い、夕方にはダリットの生徒たちがセンターを自習室にしている。村人はセンターを特別な家族の集いや宗教儀式的集いに使っている。私たちも時にはセンターを他のトレーニングのために使っている。



ダリット運動はこのディケアセンターに全面的に協力している。また、村の中から“不可触性”とカースト差別を根絶するよう村の若者たちを励ましている。

2. ムルウォイ・ダリット・ディケアセンター



ムルウォイ村はアラコナム地区にある。村にはダリット世帯が150、その他カーストに属する世帯が225ある。ダリット世帯の大半は他のカーストの人たちに依存した職に就いている。日雇い労働として他のカーストの農地で働く。モンスーンの時期の3、4カ月、畑で仕事をし、それ以外の月は都市に出て建設や清掃の労働に就く。

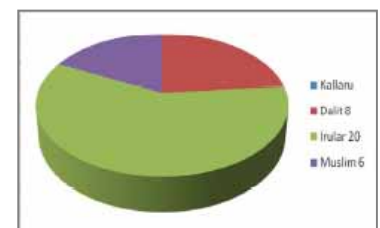
ムルウォイ村の人びとの要請で、SRED はダリット・ディケアセンターを始めた。現在、センターには2歳から5歳の子ども29人が通っている。その内、12人が女子で17人が男子である。アラメルが先生で、もう一人子どもたちの世話をする人がいる。先生は基本的なレッスン、ストーリーや詩の読み聞かせ、ゲーム、遊び歌などを教える。先生はまた基本的な衛生管理や教育の大切さを教えている。ムルウォイセンターにはブランコ、滑り台、シーソーの遊具を備えた遊び場がある。



3. カラル・ダリット・ディケアセンター



カラルはヴェローラ地区のアラコナム・タルクにある。このセンターには、5つの村と6か所のレンガ窯からの子どもたちが通っている。今年度は34人の子どもた



ちがいる。先生はファリーダで、彼女は中途退学した子どもたちを教えていた。

Priya 4 year old Dalit poor girl joined the Dali Day care Centre



Kallaru, since her mother Amul was a construction worker. She is the eldest daughter. While in the day care center Priya suffered chest pain and fever. With the help of SRED she was taken to a doctor. The tests disclosed that Priya was suffering with the congenial heart disease and she required immediate operation. Priya was taken to Dr.Srimathi, a dedicated heart surgon at KJ hospital, Chennai. Priya was given Rs.70,000 as a grant for her life saving medicines. She was admitted and operated. SRED supported her post-operation care. After getting cured she continued in the day care center and now is enrolled in the government school Parameswaramangalam. She is now medically fit and is continuing her studies. She attends the eveing school classes conducted at Kallaru.

センターには女子が 18 人、男子が 16 人いる。子どもたちの年齢は 6 カ月から 6 歳である。卒園後、子どもたちはアリヒフパディ、アットル、ポイガイパッカムの小学校にそれぞれ入学する。

前年度は 12 人の子どもたちがポリガイパッカムとアリヒフパディ小学校に入学した。



4. パラヴォイ・ダリット・ディケアセンター



パラヴォイセンターはアラコナム・タルクの近くにある。センターには 5 つのダリットの村から子どもたちが通っている。生徒は 15 人である。ギリジャが先生で、バブが先生を助けて子どもたちの世話をしている。

5 つのダリット村の家族は基本的なアメニティを完全に否定され、大体は貧困線以下の生活をしている。

パラヴォイには学校はない。子どもたちはアラコナムの学校に 7 キロ歩いて通わなくてはならない。通学に使える交通手段はない。



親たちは近隣の村で働いているが、家には幼い子どもたちの世話をする人は誰もいない。教員は歌やダンスやロールプレイで子どもたちを指導している。センターには、シーソー、滑り台、ブランコの遊具が付いた遊び場がある。SRED が栄養のある食物と制服を与えている。子どもたちは毎日喜んでセンターに通っている。

5. カヴェリラジャブラム・ダリット・ディケアセンター

村はティルヴァルール地区にある。村には 250 のダリット家族が住んでいて、センターは村の中心にある。特に、靴職人のアルンタチャに属するダリットの子どもたちが多く通っている。村には家畜を飼育している世帯が多数ある。



センターには 30 人の子どもが通所しており、その内 13 人が女子で 17 人が男子である。子どもたちの中にヤミニという名の身体障害をもった女兒がいる。村にはマタマの子どもが多数いる。村のアルンタチャの人びとの厳しい生活を考え、SRED はこのセンターを設立した。



センターには世話人がいて、彼女が食事を作ったり子どもたちの面倒をみている。先生はムンジュンラ

である。この村から 20 人の子どもたちがタミール福音ルーテル教会の運営する正規の学校に入学した。

The Dalit girl Mahizhini from Kaverirajapuram was admitted in the Kaverirajapuram day care center since her parents were agricultural workers and could not send them to school. The girl was in the day care center for two years. Later she was enrolled in the school run by Lutheran Church. She and is the class leader. The head master called the parents and appreciated them for the achievements of the girl. The parents came to the center and thanked the day care school teacher. This is a great achievement since this Dalit girl is able to compete with the other caste children.



6. ムトゥール・ダリット・ディケアセンター

ムトゥール・ダリット・ディケアセンターは 450 のダリット家庭にサービスを提供している。これらダリットは農地での労働に依存している。村には中途退学の子どもたちが多数いる。苦しい家計のために、親たちは子どもたちを他のカーストの家庭に子守、家事手伝い、家畜の世話、花摘みなどの仕事に行かせている。村人は教育を重視していない。



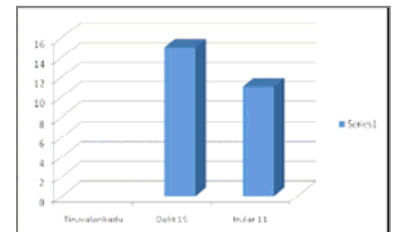
SRED はダリット・ディケアセンターを開始して子どもの教育に関心を向けさせた。現在センターには 44 人の子どもがいる。内、18 人はダリットの女子で 26 人が男子である。センターは子どもたちに授業、食事、衣服を与えている。親たちは安心して仕事につける。

このセンターで SRED はムドフル村の少女たちに 2 日間の縫製訓練を提供している。センターから 5 人の子どもが正規の学校に入学した。

7. ティルヴァランカドゥ・ダリット・ディケアセンター



センターはイルラの村の真ん中にあるティルヴァランカドゥ地区に位置している。センターにはダリットよりイルラの子どもたちの方が多く通っている。地域には非常に貧しいイルラの家ががたくさん生活している。センターには 26 人の子どもが通い、その内、15 人は女子で 11 人が男子である。



子どもたちの親は建設現場や精米所で働いている。子どもたちには栄養のある給食が与えられ、衛生や清潔にすることが教えられている。地元のダリット女性のクリシュナヴェニが先生として子どもたちを指導している。

子どもたちには衣服が与えられ、親たちには子どもの教育や育児について相談会を開いている。大きな問題は精米所で働く親たちは債務奴隷となっ



ていることだ。このため子どもたちはセンターに来たり来なかったりで、出席率は非常に低い。

全体的な結果

ディケアセンターに通う子どもたちは勇敢で賢い。一般の子どもたちにひけをとらないし、学習態度も優れている。他の子どもたちより秀でた成績をおさめる。ダリット男子のラジェンドレンは3年生で学年一番の成績をおさめた。

子どもたちは児童労働から守られている。退学率も低い。正規の学校への入学率も高くなった。

センターはコミュニティセンターとして、職業訓練の場所として、さらには高学年の子どもたちの補習クラスとして使われている。

The parents of Sathesh, Dalit boy, Laxman and Selvi are landless agricultural workers. They used to take Sathesh along with them to the place identified this boy as a he was admitted in center, When the boy came to he was very adamant his mother. Gradually his affection and made him to have a liking in studies. He used to take part eagerly in the extra curricular activities. After the day care he was enrolled in the primary school Anandapuram. He excels in his studies and scores rank one in his class. The teachers are amazing at his talents.



Soundarya is the daughter of the brick kiln worker Malliga, belonging to the Irular family from Arihilapady. Malliga took her two children one Soundarya and the sister one year old to On the way while unmanned railway fell down along with The passing train of the little girl in the accident she SRED supported her to be taken for treatment at CMC Hospital at Vellore. After the Doctors advice an artificial leg was fixed with the support from SRED. After she was cured she was admitted in the day care center and later she was enrolled in the formal school education and she is studying in the Arihilapady government school.



センターは子どもたちの保護機能を果たしており、親たちは心配することなく子どもたちを預けて仕事に行ける。

子どもたちは栄養補給により健康を向上させている。衛生意識が高まり、身の回りを清潔に保つようになった。

子どもたちは協調しあいながら相互のつながりを作っている。

子どもたちの視野は広がり、文化的知識やスポーツの技能を身につけていっている。

夜の補習クラスはカンチープラム、ティルヴァール、ヴェローラの3地区の20村で開かれている。補習クラスはダリットの子どもたちが

Malini d/o Arputham and Ezhumalai had to drop out from school in order to take care of her younger sibling. The parents are construction workers. The day care center teacher counseled the parents and they brought the younger sibling to the day care center. SRED team had negotiated with the school authorities and helped her for pursuing the education. The younger one was continuing in the day care and now he is also enrolled in the formal school. Thus the Ananthapuram day care center paved way for the education of the two children.



学校でよりよい学業を修めるよう行われている。通常、ダリットの子どもたちは学業に励むことが難しく、その他の子どもたちと同等の成績をおさめることができない。この障壁を夕方に特別指導を行うことで克服する。子どもたちは学校で学んだことを復習して理解を高めている。補習クラスにより子どもたち

は授業で分からなかったことを理解できる。大半のダリットの子どもたちは家で勉強する環境にない。親の非識字がさらにそれを進め、勉強への関心を薄めている。

補習クラスに通う子どもたちの学校での成績は良くなった。これは退学率を減少させ、ダリットの子どもたちに自信を植え付けている。これはまた劣等感をなくす助けになっている。SRED は以下の補習クラスを運営している。